

第1回芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

○日時 : 平成28年11月30日(水) 9:00~10:00

場所 : 福山市役所 6F 60会議室

出席者 : 福山市長

府中市長

広島県土木建築局長(代理:道路河川課長)

気象庁広島地方気象台長

福山河川国道事務所長

八田原ダム管理所長

【承認事項】

- ・設立趣旨、規約の承認
- ・「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく芦田川流域の減災に係る取組方針の承認。

【主な発言要旨】

(福山市長)

危機が迫った場合、迅速に避難勧告を発令する大きな義務がある。

避難勧告を行う判断基準について何かあれば教えていただきたい。

(福山河川国道事務所)

昨今、東北において大きな被害が発生するなど、異常気象が頻発している。

実際に被害を受けられた首長の意見において、「躊躇無く避難勧告を出す必要があっ

た」などの声があげられている。また、夜間の避難勧告の発令は、住民の方の安全

上、また、一人一人の現実的な避難行動に結びついているか不明であるため、明るいう

避難勧告発令という意見もあがっている。

(気象庁)

気象庁においては、気象衛星、スーパーコンピューターにより、気象予測の精度向上を

図っている。自治体へは防災情報提供システムによる色分けした気象情報発令の改良版

を今年度から提供しているが、H29年度出水期まで一般向けに本格運用を開始するよう

予定している。危険度を時系列色分けして示すことにより、一目で分かるように表示す

るとともに、現場レベルのホットラインにより、万全を期していきたいと考えている。

(広島県)

首長は躊躇無く避難判断を行っていただく必要がある。

避難判断に資する基準水位について、今年、来年において避難時間を考慮したリードタ

イムを精査し、住民が判断しやすい形で見直しを行っている段階である。

あわせて、タイムラインについて作成準備中である。

(福山河川国道事務所)

避難勧告の空振りにおいては、住民の方々も寛容さもないとなかなかうまくいかない。引き続き、ホットラインを活用し、災害時に刻々と変わる情報を提供していくので、避難勧告の判断については躊躇なく行っていただきたい。

(八田原ダム管理所)

取組方針内にホットラインの活用について記載した方が良い。

(福山市長)

11月27日(日)に福山市総合防災訓練を実施した。訓練内でホットラインを活用したが、大変心強い体制を構築して頂いている。

委員の方々から、「躊躇なく避難判断を」というご指導をいただいたが、全くそのとおりである。ホットラインを活用して情報収集し、的確な情報を迅速に住民へ伝えることが重要である。また、避難方法については、避難場所への避難のみではなく、垂直避難等、臨機応変な判断が必要となる。行政と住民の意思疎通ができていなければならない。

タイムラインについては住民に共有されていかなければならない。

(福山河川国道事務所)

タイムラインの事例として、住民への共有のみではなく、ライフライン関係、企業なども参加したものもある。参加した企業においてはBCP(業務継続計画)を作成しているものもある。

(府中市長)

夜中の避難勧告は現実的に難しい。府中市においては、明るいうちに避難準備情報を発令し、事前に避難に対する情報を出している。有効な対応と思っているが、空振りが多い。住民からは「またか・・・」という意見も出ている。だが、明るいうちに避難準備情報を出していくことが必要と考えている。

(福山河川国道事務所)

現在作成済みのタイムラインは台風が対象であり、洪水に対するもの、住民に対するものにしていくことになると、検討する必要がある。今後、意見交換などを行い、改善していく必要がある。

「以下余白」